

# 石越中の新校舎が完成

2・3年生の生徒や教職員、地域住民らが見守る中、テープカットで新校舎の完成を祝いました



落成式典であいさつする吉野校長



「新しい伝統を築いていきたい」。生徒を代表し誓いの言葉を述べた菅原君

東日本大震災で被災し、復旧工事が進められていた石越中の新校舎が完成しました。4月7日には、同校で落成記念式典を開き、生徒や教職員、地域住民や市関係者など約130人が出席、新校舎の完成を祝いました。

式典では布施孝尚市長が「校舎を建設するに当たっては、生徒の皆さんが生き生きと仲間と安心して学び遊べる空間を作ることを主眼に考えました。皆さんには、地域と共にある石越中の歴史と伝統を受け継ぎ、市内外での活躍を期待します」と式辞を述べました。

吉野幸信校長は「完成した施設を最大限に生かし、登米市に冠たる石越中生を育成していきたい」とあいさつ。生徒会長の菅原健登君（3年）は「新しい校舎で、新たな気持ちで、新しい伝統を築いて

いきたい」と力強く話しました。

新校舎は、旧校舎を解体した敷地内の南側に建設。鉄筋3階建てで延べ床面積は2945平方メートル。東日本大震災の教訓から建築設計を見直し、より地震に強い構造にしました。内装にはできる限り地元木材を使用し、温かみのある空間となっています。

そのほか、エレベーターやスロープ、多目的トイレなどを設置してバリアフリーにも配慮。全ての照明のLED化や窓ガラスに断熱塗料を塗るなど、環境と省エネルギーにも配慮した造りになっています。

校舎に隣接する屋内運動場は、鉄筋一部鉄骨2階建てで、延べ床面積は1623平方メートル。校舎と屋内運動場を合わせた総事業費は約15億2000万円です。



落成式典の翌日（4月8日）には入学式が行われ、新しい校舎に新入生を迎え入れました